

(授業報告ノート)

模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践 ～にちぶんブライダルプロジェクト 2023～

谷口重徳¹、松笠裕之²、津田なおみ³、佐々野真一⁴

1. はじめに

本稿は、2023年度に実施した「にちぶんブライダルプロジェクト 2023」の取り組みに関する活動報告である。

にちぶんブライダルプロジェクトは、模擬結婚式の企画・運営を通じ、ブライダルなどの式典の場面で求められるホスピタリティや司会進行のためのアナウンス能力の学びを深める参加・体験型学習プログラムの総称である。ここでは学生が新郎新婦、立会人、ディレクター、司会進行、サービスなどの様々な役割を行う。学生は本プロジェクトへの参加を通じ、教室での学びを経験知と重ね合わせ、自身の成長につなげることができる。

本プロジェクトは2021年度に模擬結婚式をスタジオ内で実施し、その映像をオープンキャンパス等で紹介するという試みから始まり⁵、2022年度からは模擬結婚式をオープンキャンパス当日に来場者の列席のもとで実施するなどの充実化を図ってきた⁶。2023年度は学生の企画と運営面での実践力をさらに高めるための演出上の工夫や新たに学外企業からの協力も得ながら、7月のオープンキャンパスにおいて来場者の列席のもとで模擬結婚式を実施した。そしてその成果を8月以降のオープンキャンパス等において参加学生が発表した。本プロジェクトの発足から3年目となり、参加学生の中に少しずつ経験が受け継がれる様子も見受けられる。

2. 2023年度プロジェクトの概要

(1) プロジェクトのねらい

日本語日本文化学科では2023年度からのカリキュラム改訂においてプロジェクト型学習プログラムが導入された。そこでは授業科目とは別に学生主体で編成したプロジェクト

¹ 文学部日本語日本文化学科准教授

² 文学部日本語日本文化学科准教授

³ 文学部日本語日本文化学科講師

⁴ 文学部日本語日本文化学科准教授

⁵ 谷口重徳、橋本裕之、津田なおみ、2022年、「(授業報告ノート) 模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践」『甲南国文』69号、甲南女子大学国文学会、193(16)-188(21)。

⁶ 谷口重徳、橋本裕之、津田なおみ、2023年、「(授業報告ノート) 模擬結婚式の企画運営を通じた学びの実践～にちぶんブライダルプロジェクト 2022～」『甲南国文』70号、甲南女子大学国文学会、206(1)-201(6)。

チームが、担当教員のサポートを受けつつ、主体的に課題に取り組み、その成果を様々な機会に発表することで実践力を育成することがめざされている。

今年度のにちぶんブライダルプロジェクト 2023 では、模擬結婚式の企画・運営を通じ、ブライダルなどの式典の場面で求められるホスピタリティや司会進行のためのアナウンス能力の学びを深めるというこれまでの方針を引き継ぎながら、いっそう学生の実践力を高めていくことをめざした。

(2) 全体の流れ

まず、年度当初の各学年オリエンテーションにおいて今年度のプロジェクトの実施の紹介と参加者を募った。5月18日に説明会を実施し、参加希望者の登録を行なった。そして5月下旬から7月中旬まで準備を進め、7月15日の夏季オープンキャンパス当日に模擬結婚式を実施した。8月と9月のオープンキャンパスにおいて模擬結婚式の様子を編集した動画とともに参加学生による発表と展示を行なった。

今年度のプロジェクトには22人の学生が参加した。プロジェクトの運営に際し、学外の企業や団体との調整および模擬結婚式の進行についての助言は主に松笠と津田が、学内調整については主に谷口が、プロジェクトミーティングの運営については谷口、松笠、津田、佐々野が担当した。またプロジェクトの遂行に際しては、日本語日本文化学科構成員の協力と助言を受けた。

(3) 関係部署との調整

今年度も一般社団法人全日本ブライダル協会⁷から模擬結婚式での衣装や小物類のレンタル、そして模擬結婚式の運営助言など多岐にわたる協力を得た。模擬結婚式の様子を記録した動画については学外のクリエイターに撮影と編集を依頼した。さらに今年度の新たな取り組みとして、株式会社ホテルオークラ神戸と株式会社ポートピアホテルから模擬結婚式会場にディスプレイ展示による技術支援を受けた。

学内関係部署との調整については、模擬結婚式をオープンキャンパス当日に実施することから入試課との調整を行った。また模擬結婚式の会場として8号館撮影スタジオを使用することからIT・管財課から協力をを受けた。さらに、情報発信のため広報課から協力をを受けた。そして各種の手続きに際しては日本語日本文化学科コモンルームを通じ、文学部・国際学部事務課と調整を行った。

3. 模擬結婚式の準備と実施

(1) 準備

今年度の本プロジェクトでは、年度当初の各学年オリエンテーションで参加学生の募集

⁷ 一般社団法人全日本ブライダル協会公式サイト <https://www.ajba-civil.or.jp> (2023年12月20日閲覧)

を行った。さらにプロジェクト担当教員のそれぞれの授業の場やコモンルームでチラシを掲示するなどの告知を行い、22人の学生が参加した。メンバーとなった学生は、事前準備の役割と当日の役割をそれぞれ決めた。事前準備は、企画・総務・展示7人、広報記録3人、物品制作4人、音楽4人、会場レイアウト設営リーダー1人、ゼネラルマネージャー1人の構成とした（兼任者有り）。また、模擬結婚式当時の役割は、新郎新婦各1名、立会人4人、ミニスター3人、司会3人、リンクガールのアシスト1人、セレモニーのアシスト2人、会場受付・誘導4人、記録3人、音響2人、ディレクター（学生キャプテン）1人の構成とした（兼任者有り）。

準備は、担当グループごとに随時ミーティングと準備作業を行いつつ、全体の定例ミーティングにより進捗状況と情報の共有を行なった。全体の定例ミーティングは5月25日、6月1日、6月15日、6月22日、6月29日、7月6日の木曜日の計6回、昼休みに学科コモンルームで実施した(写真1)。また、模擬結婚式前日の7月14日に会場設営と全体リハーサルを行った。メンバー間の情報共有には、これらのミーティングと共にLINEアプリのグループ機能を用いた。

模擬結婚式は、今年度も特定の宗教性を持たないシビルウェディング⁸方式で実施した。これは現代社会の価値観の多様化を考慮した上での判断である。また、近年の個性化・多様化するブライダルの場面において新郎新婦の意向に沿ったテーマが設定され、それに沿った演出がなされていることを踏まえ、模擬結婚式でテーマを設定する



写真1 ミーティングの様子

(学科公式インスタグラム7月23日より)



写真2 水色のバージンロード上での記念撮影

⁸ シビルウェディングとは、全日本ブライダル協会が提唱する人前式で、結婚式の前に予め役所に婚姻届を提出し、その長が発行する婚姻届受理証明書を司式者が読み上げ、参列者一同に披露するセレモニーである。一般社団法人全日本ブライダル協会 HP (<https://www.ajba-civil.or.jp/civil/civil01.html>)、2023年12月20日閲覧)。

こととした。さらに模擬結婚式の実施が7月であり、夏の季節感を踏まえた演出を行うこととした。

企画担当グループによる原案について全体ミーティングで検討を重ねた結果、今年度の模擬結婚式は、「神戸と海」をテーマに設定し、「甲南女子大学から見える青い空と青い海をイメージ」して演出を行うこととした。それに沿って、水色のバージンロードを制作し（写真2）、会場内も水色と白を基調とした装飾をした。受付に神戸の海をイメージしたセッティングを行ない、株式会社ホテルオークラ神戸と株式会社ポートピアホテルからもテーマに沿ったディスプレイ展示の技術支援を受けた（写真3、写真4）。こうしたテーマ設定により、統一感のある会場づくりができた。



写真3 ホテルオークラ神戸による展示



写真4 ポートピアホテルによる展示

また、模擬結婚式にオープンキャンパス来場者が列席されるため、来場者が参加可能な演出を検討した結果、新郎新婦の指輪交換の際に指輪を運ぶリングガールを来場者の中から「くじ」で選ぶこととした。また、来場者が会場に入場する際にカップに用意した青と白の砂を透明のプレート型容器に入れてもらうサンドセレモニーの演出を行うこととした（写真5）（写真6）。さらに、新郎新婦の退場時にビーズを真珠に見立てたパールシャワーの際にも来場者に協力してもらった。

会場内で上映するエンディングロール映像を制作し、新郎新婦役学生の幼少期から現在までを紹介する画像や模擬結婚式の準備の様子なども紹介した。さらに会場内にも新郎新婦役学生を紹介する写真などを掲示した。

一連の演出に必要な小道具の制作と合わせて結婚届受理証明書、新郎新婦からのメッセージカード、配布用プログラムなども随時制作した。



写真 5 来場者のサンドセレモニーへの参加



写真 6 新郎新婦によるサンドセレモニー

(2) 事前学習

学生のブライダルへの理解を深めるために外部講師による特別授業（講演会）を6月27日3時間目に実施した。講師に手塚潤氏（株式会社ホテルオークラ神戸執行役員・営業部長）と梅田絢子氏（株式会社リクルート Division 統括本部・マリッジ&ファミリー Division）をお迎えし、「最近のブライダル市場について～コロナを経てカップルの結婚式に対する大事にしたいことの変遷～」というテーマでの特別授業を実施した。なお、対象学生は、ホスピタリティコースの3年生およびアナウンス入門受講者も含め希望のあった学生であり、実質的にプロジェクト参加学生が数多く受講した。

(3) 模擬結婚式の実施

今年度の模擬結婚式は、7月15日のオープンキャンパスの学科イベントとして、午前と午後の2回実施した。午前と午後の部ともに用意した約50席が満席となった。

模擬結婚式の進行の概要は次のとおりである。まず841教室にてイベント来場者（列席者）に趣旨説明を行い、その後、（841教室に隣接する）AVスタジオの模擬結婚式会場へ誘導した。列席者への案内と会場への誘導には案内受付役の学生が対応した。

模擬結婚式は、前年に続き、全日本ブライダル協会が提唱するシビルウェディングという人前式の形式で実施した。来場者がサンドセレモニーに参加し、着席した後、司会によるアナウンスに従い、ミニスター役、介添え役の学生が入場した。そして新郎役学生の入場とその父役の教員に続き、新婦役の学生とその父役の教員が入場した。ミニスターの進行により、開式の辞に続き、誓約、指輪交換が行われた。その際、来場者の中からくじで選ばれたリングガールが指輪を運んだ。そしてミニスターによる祝辞を経て、閉式の辞と進んだ。新郎新婦の退場の際には、エンディングロールの映像を上映しつつ、パールシャワーに協力していただくことで、列席者にもイベントへ参加した気分を体感してもらえようとした。

(4) 成果発表

8月5日、6日、9月3日のオープンキャンパスにおいて模擬結婚式の様子を編集した動

画と展示物を紹介するとともに、参加学生によるプレゼンテーションを行い、学生の視点から本プロジェクトの概要、準備作業の詳細、参加した感想などを来場者に紹介した。また、12月11日に大学見学で来訪した兵庫県内の高校生に対しても模擬結婚式の動画と展示、参加学生によるプレゼンテーションを行なった。いずれの機会でも、本プロジェクトに対して来場者から肯定的な評価を多く頂いた。

4. プロジェクトの効果

(1) 学びの効果

前年度に続き、今年度もオープンキャンパス当日の来場者の列席のもとで模擬結婚式を開催したことから、特有の緊張感があるイベントとなり、参加学生にとっては貴重な経験の機会になったといえる。今年度の模擬結婚式は、新郎新婦、立会人の入退場のタイミングや場面転換のタイミング等を含め模擬結婚式全体を学生のディレクター（学生キャプテン）が差配し、それに他のメンバーが連動して運営することができた。これは、今年度の参加学生の中に過去の本プロジェクトメンバーが3人参加したことで、その経験がミーティング等を通じて共有されたことによると考えられる。ホスピタリティの接客場面やアナウンスでの司会進行場面などは、経験知の積み重ねが求められることから、本プロジェクトを継続したことによって、教育効果が高まっていると思われる。

以下の参加学生のコメントからも、本プロジェクトを通じた学びの深まりと自身の成長の実感の様子がうかがえる。

「どういうテーマにするか、どういったプランの企画にするのか、どういうイベントをするのか、会場の飾り付けから使用するバーজনロードのデザインはどんな風に仕上げるか、音楽はどんなものを使うのかなど、本当に結婚式を一から企画していったので参加することでどんな流れで行うのか実感することができました。私は音響と企画運営でしたが、音楽を決めることからすごく時間がかかったし、企画でも材料を買い足す作業も多く大変でしたが、とてもやりがいを感じることができました。」

「ブライダルプロジェクトに参加して企画力や、人や計画をまとめる力、計画性、実行力などが身についたと思う。楽しい、やりたい！だけでは成り立たず、何を削るのか、どうすれば予算内で収まるか、手作りするならどれくらいの量なら実行出来るのか、人数配分などあらゆる面から考えることが出来るようになったと思う。企画や提案を行うお客様側、それをまとめ実行するブライダルプランナー側の仕事を両方体験したことでコミュニケーションの大事さを感じた。コミュニケーションが取れないとどんな結婚式がしたいのかお客様から聞き出すことは出来ないし、プランナーの考えとお客様の考えが少しずつ異なってきて最終的には取り返しのつかないことになってしまう。そうならないように毎回お客様(今回はプロジェクトメンバー)とコミュニケ

ーションをとり考えの擦り合わせを行う重要さを実感した。」

「誰も作業について妥協しなかったところがプラスの印象に残っている。小物の数も300個単位であり、それ以外にも途方もない量の制作物があったにも関わらず、ひとつも雑に作られておらず完璧に仕上げられていた。バージンロードもほぼ1日で仕上げなければならず時間がないにもかかわらず、一つ一つリボンを付けてくれていた。司会のセリフも何度も相談して変更してくれて、みんなが良い物にしようと妥協しなかったのが良かった。」

「私が一番先輩だったので、後輩たちを引っ張っていかないといけないという思いがありました。だいぶ頼りない先輩だったとは思いますが、「先輩！ここはこうしたら??」と後輩たちがたくさんサポートをしてくれました。私は後輩たちにずいぶん助けてもらいました。

人と人は、こうして支え合って、目標へ突き進んでいくんだなと今回学ぶことができました。本当に貴重な体験ができて、勉強になりました。学生のみんなや、先生方、関わってくださった皆様に感謝したいと思います。」

また、本プロジェクトを通じてブライダルやホスピタリティ、アナウンス等への理解の深まりも見受けられる。

「ブライダルプロジェクトを通してウェディングプランナーが普段どのような仕事をしていて式を見てどのように感じているのか少し分かった気がしました。そして一つの結婚式を作るためにとても大変であると実感したと同時に皆で作り上げる楽しさを感じました。広報としての仕事をする中で苦戦した所もありましたが、私にとってとても良い経験になり、参加して本当に良かったと思います。」

「私は司会を務めさせていただいたのですが、声のトーンを変えることで話の転換点を作ることができ、会場の空気が変わったことが分かりとても勉強になりました。」

さらに本プロジェクトによって学年や所属ゼミ、コース（分野）を超えた学生同士の交流を深めることができた。新型コロナ禍によりグループ活動に制約を受けてきた学生にとって本プロジェクトのような参加体験型の学びの機会是非常に意義があるといえる。学生からは「当日までバタバタと慌ただしい数週間でしたが、学年の壁を越えて、全員で良いものをつくらうという意識が感じられたプロジェクトでした」というコメントや「当日は、泣きそうになるくらいとても良い式になり、嬉しかったです」というコメントなどからも学生にとって印象深い経験になったことがうかがえる。

(2) 情報発信

本プロジェクトに関する情報発信は前述のオープンキャンパスに加え、「学科ブログ(学科日誌)」(6月23日記事/7月4日記事/7月7日記事)や「学科インスタグラム」(5月26日、6月15日、6月21日、7月6日、7月7日、7月13日、7月21日)でも準備段階から当日の様子まで随時情報発信を行った。また2025年度入学者用『大学案内』にも関連情報を掲載する。

オープンキャンパスなどで本学科に関心を持つ高校生・受験生から本プロジェクトに対して肯定的な反響が多々見受けられることから、本学科の特色ある教育内容の一つとして今後も様々な機会に情報発信を試みたい。

5. 課題と今後の展望

今年度もオープンキャンパス来場者の列席のもとで模擬結婚式を実施することができた。前年度から継続して参加した学生が3人いたことから、過去の経験が少しずつ共有されるようになってきた。それによって本プロジェクトに対する学生の理解が深まっているように見受けられる。

本プロジェクトの次年度の実施に際しては運営体制にさらなる改善の余地がある。準備段階での全体ミーティングと役割ごとのミーティングと作業を並行して行なったが、全体ミーティング時間が少なく、準備の全体的な進捗状況を全メンバーが十分に把握することが難しくなってしまった。次年度以降においては、準備段階での全体ミーティングの確保と役割ごとの実作業時間の確保が課題となろう。本プロジェクトと授業との連動性を高めることも方策の一つと思われる。

また、今年度は新たに株式会社ホテルオークラ神戸と株式会社ポートピアホテルから技術支援を受けることができた。今後も本プロジェクトに関連する学外企業や団体との連携を展開することで、本プロジェクトを起点とした産学連携へつなげるなどの展開をはかりながら、本プロジェクトを特色ある教育プログラムの一つとしてさらに発展させられるように鋭意取り組みたい。

本プロジェクトの運営に際し、日本語日本文化学科の先生方とコモンルーム、そしてIT・管財課、入試課、広報課には多大なご支援をいただいた。記して感謝申し上げる。